資料3

28年漁期　まあじ漁獲可能量（TAC）案について

（単位：万トン）

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備　考
		水準	動向	25年	26年	27年	**28年**	漁獲シナリオ（管理基準）	25年	26年	27年	**28年（案）**	
まあじ	【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持を基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。												【28年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については漁獲シナリオ②の「現状の漁獲圧の維持（2．48万トン）」、対馬暖流系群については漁獲シナリオ③の「親魚量の維持（22．1万トン）」から韓国の直近5年平均の漁獲量1．8万トンを控除した20．3万トンを日本EEZの値とし、これらの合計値22．78万トンをTAC数量とする。
	太平洋	中位	横ばい	2.0	1.82	2.57	**2.48**	現状の漁獲圧の維持（②）					
	対馬暖流	中位	横ばい	21.8 (18.4)	24.0 (20.8)	23.5 (21.7)	**22.1 (20.3)**	親魚量の維持（③）					
合　　計				23.8 (20.4)	25.82 (22.62)	26.07 (24.27)	**24.58 (22.78)**		21.4	23.42	24.27	**22.78**	

注1）　27年のABClimit欄は再評価後の数量。25年、26年及び27年のTAC欄は期中改訂後の数量。

注2）　下段（　）書きについては、日本EEZの値。26年までは全漁獲量に対する日本EEZの漁獲割合から算出。27年からは韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。

【資源評価結果】

〈参考〉　Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量（親魚量）の状態	漁獲シナリオ（管理基準）	2016年漁獲量（万トン）	評価		2014年親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に2014年親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率		
太平洋系群	中位	横ばい	＞Blim	ABClimit				3.5万トン	親魚量 2.4万トン
				＊① 親魚量の増大（F30%SPR）	1.73	100%	100%		
				＊② 現状の漁獲圧の維持（Fcurrent）	**2.48**	**98%**	**100%**		
				＊③ 親魚量の維持（Fmed）	2.92	25%	69%		
対馬暖流系群	中位	横ばい	＞Blim	ABClimit				20万トン	親魚量 15万トン
				＊① 資源量の増大（F30%SPR）	16.7	100%	100%		
				＊② 現状の漁獲圧の維持（Fcurrent）	21.1	83%	96%		
				＊③ 親魚量の維持（Fmed）	**22.1**	**76%**	**93%**		

注）　＊のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。

参考

近年の韓国のまあじ漁獲実績※1

年（平成）	（単位：トン）
17年	41,431
18年	22,467
19年	18,627
20年	22,342
21年	21,426
22年	17,913
23年	17,813
24年	16,159
25年	14,689
26年	23,155
直近5年平均	**17,946**
《対馬暖流系群》	
平成28年ABC	221,000
我が国EEZ分	**203,000**

※1：日本EEZにおける韓国の漁獲は除く。
注1. 赤の数字は直近5年間の最大漁獲量
注2. 青の数字は直近5年間の最小漁獲量

平成28年漁期　まいわし漁獲可能量（TAC）案について

（単位：万トン）

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備　考
		水準	動向	25年	26年	27年	**28年**	漁獲シナリオ（管理基準）	25年	26年	27年	**28年（案）**	
まいわし	【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源水準の維持若しくは増大を基本方向として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源の維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動も配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。												【28年TAC設定の考え方】 太平洋系群及び対馬暖流系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを、太平洋系群については漁獲シナリオ②の「親魚量の維持（34．0万トン）」、対馬暖流系群については、漁獲シナリオ③の「親魚量の確保（10．9万トン）」とし、これらの合計値に基づく44．9万トンをTAC数量とする。
	太平洋	中位	増加	29.2	31.0	28.3	**34.0**	親魚量の維持（②）					
	対馬暖流	中位	増加	9.6	11.9	14.1	**10.9**	親魚量の確保（③）					
合　計				38.8	42.9	42.4	**44.9**		38.8	42.9	43.5	**44.9**	

注）　25年のABClimit欄は再評価後の数量、25年及び27年のTAC欄は期中改定後の数量。

【資源評価結果】

〈参考〉　Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量（親魚量）の状態	漁獲シナリオ（管理基準）	2016年漁獲量（万トン）	評価		2014年親魚量	Blimit	Bban
	水準	動向				5年後に2014年親魚量を維持する確率	5年後にBlimitを維持する確率			
太平洋系群	中位	増加	＞Blim	ABClimit				54.8万トン	親魚量 22.1万トン	資源量 2.2万トン
				＊① 現状の漁獲圧の維持（Fcurrent）	20.5	94%	100%			
				＊② 親魚量の維持（Fmed）	**34.0**	**41%**	**89%**			
対馬暖流系群	中位	増加	＞Blim	ABClimit				11.4万トン	親魚量 10万トン	資源量 0.5万トン
				＊① 長期的に安全な親魚量の確保（F40%SPR）	8.0	98%	99%			
				＊② 現状の漁獲圧の維持（Fcurrent）	9.6	96%	97%			
				＊③ 親魚量の確保（F30%SPR）	**10.9**	**90%**	**92%**			
				＊④ 親魚量の維持（Fmed）	15.2	55%	62%			

注）　＊のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。